

2024年8月14日(水)

老球の細道 821

「オラ！ スペインへ 求めれば発見あり」⑩

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅲ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富仁

このようなコーチ研修ツアーに参加すると、必ず人物との出会いがある。自費でわざわざスペインくんだりまで出かけるのだから、基本的にただ者（私はただ者です）ではない。行動力のある、人間力のある人たちとの出会いにより、さらに人的ネットワークも広がる。コーチの世界はこれが財産になる。今回も例にもれなかった。特に引率、案内を務めてくれた3人の若者との出会いは新たな財産になった。

水野慎士さん。今回の企画者で「ERUTLAC（バスケットボール家庭教師の会）」の海外事業部長である。若干33歳ながら、海外との交流企画を一切仕切る。英語はペラペラ、リーダーシップも抜群。20代で海外青年協力隊に参加し、2年間アフリカのコートジボアールでバスケットボールの指導をしてきた強者である（現在はU-18男子代表コーチ）。

富田佳宏（通称とうみん）さん。本業はホームページ制作やWEBマーケティング。バスケットは素人。1997年に初めてスペイン国内リーグを現地で観戦し、帰国後2002年より本格的にスペインのバスケットボール情報サイトを運営。スカイAやラジオなどでスペインバスケットボールの解説を行い、日本ではスペインバスケットオタクの第一人者である。今回もスペインプロチームや協会との交渉役を務めてくれた。

セルヒオ（マドリード在住）さん。スペインにおいてコーチとジャーナリストの仕事を両立させている。2013年に来日し東京、千葉、栃木でクリニックを行い、月間バスケットボールにもトステインとの対談が載せられた。昨年秋より月間バスケットボールにおいてスペインバスケットボールの記事を連載している。

この3人のおかげで今回のツアーはとても有意義なものになった。3人ともまだ30代の若者であるが、その行動範囲の広さ、発想の豊かさに圧倒された。またバスケットボールへのかかわりかたについても色々なかかわりかたがあることを勉強させられた。

【2014年 2月9日（日）】

とうとう研修最終日になってしまった。ホテルのルームで久しぶりにストレッチ。腰痛よりも股関節に違和感が。股裂きストレッチが利いたのかお尻が割れてしまった。（後から気づいたのだが、お尻は生まれた時から割れていたのである。病は気から）。

今日は注目のスペインコーチ連盟主催のコーチクリニックである。今回は現スペイン代表のアシスタントコーチをしているハウメ氏が指導する。ドリブルがテーマであった。

デモンストレーターはミニコパの各チームから出た代表3名ずつ合計24名。ドリブルのアイスブレイク（緊張をとりコミュニケーションを活発にする）ドリルから始まり、常に相手を想定し、ゲームの場面を意識したドリルで満載だった。眼からウンコじゃなくてウロコが落ちたというのはこのことか。早く日本へ持ち帰って紹介したいものである。

ステージで歌う歌手のようにヘッドギアのマイクをつけ、ブルース・ウイルスに似た容姿で精力的に指導するハウメコーチの姿に圧倒された。クリニック後私たちの観客席まであいさつに来てくれて皆で記念撮影をした。日本へ帰ってから昨年のヨーロッパ選手権のビデオを見返したら、ベンチで精力的にアドバイスをするハウメ氏の姿を発見。〈続〉